

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リエブラツクずは		
○保護者評価実施期間	R7年 4月 1日 ～ R7年 4月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	R7 年 4月 1日 ～ R7年 4月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	R7年 4月 1日 ～ R7年 4月 20日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3	(回答数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士等の特定の専門分野に特化した支援員が、利用児様のニーズに応じた対応が可能です。また同じ事業所内で、児童発達支援・放課後等デイサービスとの併用利用が可能であることから、より包括的な支援をさせて頂けます。	訪問先の活動内容や状況を十分に考慮し、支援が円滑に進むよう配慮しています。	事業所内で訪問支援についての振り返りや勉強会を定期的に行い、支援員間での知識共有を深めることが求められています。事例研究やロールプレイを取り入れ、より実践的な学びを促進することが重要と考えています。
2	訪問支援を通じて保護者と施設側とのコミュニケーションが深まり、より具体的な話ができるようになっていきます。保護者様が安心して相談できる環境が整っていることも強みです。	訪問後には支援員が保護者様や訪問先の先生と十分な情報共有を行い、支援の質を向上させる取り組みをしています。これにより、支援の連携が強化され、より効果的な支援へとつながっていきます。	訪問支援員の人員を増やすことで、現在の少人数体制による単独での対応を改善し、チームとしての一体感を醸成できるよう取り組みます。複数の支援員が互いに連携し、知識を補い合うことで、より包括的な支援が実施して参りたいと考えております。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の数が少なく、チームとしての連携が十分に取れないことが課題です。単独で対応する場面が多くなり、他の支援員と情報共有が難しくなることがあります。	支援員の人数不足により、訪問支援における情報共有や連携が不十分になりやすいことが要因の一つです。各支援員が独立して活動するケースが多く、知識の伝達が円滑に進みにくい状況が生じています。	訪問支援員を増員し、チームとしての連携を強化することが必要です。定期的なミーティングを設け、支援員間での情報共有を促進することで、支援の質を向上させていきます。
2	事業所内で訪問支援の振り返りや勉強会が実施できていないため、支援員のスキル向上の機会が不足しています。実践的な学びを深める場の確保が今後の課題となります。	保育所や学校の生活を客観的に見てもらいたいという保護者様の要望に対し、十分な対応ができていない部分があります。専門的な視点からの訪問支援を求める声があるものの、現在の体制では対応しきれていない点が課題となっています。	事業所内で振り返りの場を設け、訪問支援の改善点を共有できる環境を整えます。勉強会の開催や外部講師を招いての研修を行うことで、支援員のスキルアップを図り、より効果的な支援を提供できる体制を築いていきます。
3			